

## 学 位 論 文 審 査 の 要 旨

		要 旨
学位申請者	塩野谷 祐子 【比較社会文化学専攻 平成27年度生】	<p>本論文の目的は、幼児と母親の身体活動の中でも、母子一緒の身体活動に着目し、幼児の体力・身体活動および母親の身体活動・健康度との関連を検討することであった。論文は主に2つの調査研究から構成された。第一の研究では、母子一緒の運動実施が幼児の体力と母親の主観的健康に及ぼす影響について検討し、母子一緒の運動頻度が多い母親は、女兒において走能力といった体力との関連が見られたが、男児では見られなかった。また母親の健康は、休日の男児と一緒に活動、および平日の女兒と一緒に活動頻度が多いと、母親のストレス得点が低いという結果を得た。第二の研究では、3軸加速度センサ搭載の活動量計を用いて定量的に身体活動量を計測すると共に、質問紙調査により母親の健康度を調査したところ、重回帰分析の結果から、母子一緒の身体活動時間が休日の母親の中強度以上身体活動の説明変数となり、子どもの中強度以上身体活動に関しては、母親の労働時間が平日・休日ともに有意な説明変数となった。本論文の結果から、母子一緒の活動が、幼児に加え、母親の健康保持・増進に寄与する活動となる可能性が示された。</p> <p>第一回の審査では、2つの調査研究から、幼児および母親の身体活動・体力および母親の身体活動・健康度と母子一緒の活動との関連を明確に論じている点が高く評価された。一方、幼児の身体活動を巡る環境要因に関する説明の加筆と自由記述の質的結果に対する考察が求められた。第二回審査においては、前回の指摘が適切に修正されていることを確認した。公開発表会となった第3回審査会では、研究の背景から研究成果および総合考察までがより明確に論じられ、質疑も簡潔明瞭であり、審査員からは、新規的な今後の研究展開が期待されるという評価を得た。</p> <p>以上の点から、本審査委員会は、本論文を博士論文としての水準に充分達していると判断し、博士（学術）、Ph. D. in Health Educationに相当するものと認めた。</p>
論文題目	幼児と母親の身体活動に関する研究 —母子一緒の活動を中心に—	
審査委員     インターネット 公表	(主査) 教授 水村 真由美	
	教授 新名 謙二	
	准教授 青木 紀久代	
	教授 小玉 亮子	
教授 浜口 順子	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( 可 ・ ⊖ )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>⊕. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	